

植物 防疫 講座

虫害編-49

野菜を加害するキンウワバ類の生態と防除

千葉大学大学院 園芸学研究院 野村 昌史

はじめに

ヤガ科キンウワバ亜科に属する中型の蛾の仲間であるキンウワバ類は、温暖な地域を中心に世界には約400種、日本国内では60余種が記載されている。国内では野菜等の農作物を加害した記録が示されている12種が害虫として記載されている（日本応用動物昆虫学会，2006）。そのうち10種については拙稿「野菜を加害するキンウワバ類の見分け方」（野村，2025）で紹介した。

本稿は害虫として記載されているキンウワバ類について、主に圃場での加害や天敵類といった生態的な知見および生活史、そして農業に対する感受性などについて紹介する。なお、本稿の内容は上記に挙げた拙稿の内容との重複は最低限になるように心がけたが、本稿だけでも内容を理解することができるよう、一部重複する記述があることをお断りしておく。

I キンウワバ類の生態

1 圃場でのキンウワバ類の特徴

キンウワバ亜科に属する昆虫で、登録農薬が存在する害虫種はタマナギンウワバ (*Autographa nigrisigna*) とイラクサギンウワバ (*Trichoplusia ni*) の2種である。ただし両種とも、毎年発生量が多く農作物に甚大な被害をもたらす難防除害虫（重要害虫）ではない。しかしながら一部作物では、時期によっては優占種として加害量が多いこともあるので、発生状況を確認することが必要である。

2 キンウワバ類の幼虫の食性

農林有害動物・昆虫名鑑に記載されているキンウワバ種に、一瀬（1962）、小林（2011）により寄主植物として農作物が挙げられている種を追加し表-1にまとめた。合計17種のキンウワバ類の幼虫が農作物を加害しているが、広食性の種はほかにも様々な植物を加害している

と考えられる。また狭食性を示すとされている種は、広食性の種を飼育することができる、川崎ら（1987）が開発した人工飼料を与えても発育が悪い、または摂食しないなど飼育できない場合が多い。

キンウワバ類の幼虫の発生の特徴としては、複数の種が同じ農作物を加害することが挙げられる。例えば長野県のレタス圃場では6種の幼虫が加害しており（図-1）、他年度の調査ではイネキンウワバも摂食していたことから、合計7種のキンウワバ幼虫がレタスを加害していることがわかった。また、千葉県のごぼうでもキクギンウワバ、イチジクキンウワバ、タマナギンウワバ、ミツモンキンウワバ、キクキンウワバの5種の幼虫が加害していた。またキャベツやブロッコリー等のアブラナ科野菜では、タマナギンウワバとイラクサギンウワバの2種の優占種以外にキクキンウワバ、ガンマギンウワバ（ガンキンウワバ）、ウリキンウワバ、イネキンウワバ、ミツモンキンウワバの5種が見られ、季節によって種構成は異なるが、合計7種のキンウワバ類幼虫の加害が明らかになっている。

3 幼虫および成虫の特徴

圃場で見られるキンウワバの幼虫は、種により多少の変異はあるが、老熟幼虫で体長30~40mm程度で、腹部の第4節5節に2対の腹脚を持っている“セミルーパー

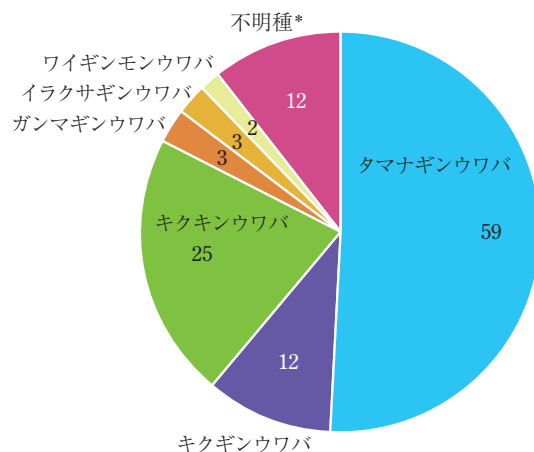


図-1 レタスを加害するキンウワバ幼虫の種構成（長野県2009年）
*不明種は病死した個体など。

Ecology, Life History and Control of Vegetable-feeding Larvae of Plusiine Moth. By Masashi NOMURA

（キーワード：キンウワバ類、生態、生活史、薬剤感受性、交信かく乱）